

平成28年度 地域活動に関する報告

- ◇通年 ・ボランティア(主にコスモス) ・一円玉募金(代議員主体)
- ◇4月 ・長野マラソンボランティア (17名) ・部活による「せぎ清掃」
- ◇5月 ・校舎敷地内の側溝清掃(2学年)
- ◇7月 ・第33回南稜祭 東日本大震災に向けての一円玉募金、被災地へのメッセージ
・なむなむキャンプボランティア
・児童・生徒・学生まちづくり意見交換会【市長と話そう～長野の未来～】副会長参加
- ◇8、9月 ・長野びんずるボランティア ・川中島白桃ツアーへの参加
・全国レクリエーション大会ボランティア
- ◇10月 ・長野ろう学校交歓会 ・更北フェスティバルボランティア
・長野南フェスティバルボランティア (12月まで) ・学校周辺ごみ拾い活動
・川中島町あいのしま音楽祭軽音部参加
- ◇11月 ・一斉委員会 ・下水鮑保育園へのボランティア開始
- ◇2月 ・灯明祭りボランティア参加

信濃毎日新聞 平成28年4月19日(火)



松代大橋近くの給水所でランナーに声援を送る高校生ボランティア



そろいの法被を着て、エムウエーブ近くの沿道で応援する「どんどこ座・芙蓉の会」のメンバー

長野マラソン

17日に長野市で開いた第18回長野マラソン。今年も多く市民やボランティアらが沿道から盛んに声援を送り、強風の中を駆ける9500人余のランナーたちを後押しした。

各給水所では、緑色のウエーブを着た中高生ボランティアらが運営を支えた。38・8キロ地点の松代大橋近くの給水所では、市内の長野南高校生徒会役員らが紙コップに水を用意し、「頑張れー」と力を振り絞るランナーに声を掛けた。生徒会長で3年の桐山奈々さん(17)は「皆さんが『ありがとう』と返してくれてうれしい」と笑顔を見せた。

声援が太鼓が力走後押し

発行責任者：2016年度(公社)南長野青年会議所・総務渉外委員会

発行：平成28年12月

創立55年・認承45周年
JCI 公益社団法人 **南長野青年会議所**
 Junior Chamber International MINAMI NAGANO



2016 かがり火

Vol.3

2016年度 スローガン **未来を創造する為**に礎となる

2016年度 外報紙

創立55年・認承45周年 記念事業

南長野フェスティバル2016 ~未来を照らす希望の光~

11月26日(土)~12月25日(日) 南長野運動公園 担当 ■ 45周年実行委員会 ■

地元高校生たちの企画・制作



オリピックスタジアム正面入口の「不思議の国のアリス」のトランプ兵、噴水周りのレインボートンネル、各企業や個人によるイルミネーション作品、池周辺の「戦国・真田幸村の世界」のイルミネーションは、どれもが綺麗に光輝いております。

イルミネーションの点灯は二月二六日から二月二五日(日)まで点灯し、南長野フェスティバルが終了致しました。

(公社)南長野青年会議所・創立五十五年・認承四十五年の記念事業として、「南長野フェスティバル」を未来を照らす希望の光を開催致しました。

今年で九回目を迎えるイルミネーション事業として、本年は地元高校生(更級農業高等学校、松代高等学校、篠ノ井高等学校、長野南高等学校)が、「戦国・真田幸村の世界」と「不思議の国のアリス」をテーマとしてイルミネーションを企画致しました。構想から作成まで高校生たちの柔軟な発想力と行動力で、南長野運動公園をイルミネーションで飾りつけ致しました。一月二六日(土)の点灯式にて、一緒にイルミネーションを点灯しました。

(第三種郵便物認可)

長野市民新聞

野菜摂取や減塩をPR

長野南高校で20日、家庭科部員の生徒を対象に生活習慣病予防の講座が開かれた。東北地区食生活改善推進協議会が、高校生対象の講座として初めて企画。生徒16人は座学や調理を通じて、野菜摂取や減塩の大切さを学んだ。

講師の塚田和子・同協議会会長(55)は、2016年(平成24)年の厚生労働省の調べで長野県民の1日の平均野菜摂取量が全国平均を上回った一方、成人1日当たりの食塩摂取量はワースト3位以内に入っていると説明。普段の生活から注意を促した。

長野南高生に講座 更北食改協が座学や調理



塚田会長(右)に教わりながらこねつけを作る生徒

生徒は2、3人のグループごと「自宅でも簡単にできて栄養のバランスが良い」というキーマカレー、インゲン

とニンジンのごまあえの2品を調理。郷土食の「こねつけ」にも挑戦し、ご飯に小麦粉を混ぜた生地、みそと砂糖などを混ぜた「甘みそ」を包んでフライパンで焼いた。

同高校家庭科部長の袖山絵理奈さん11年生は「こねつけは水加減が難しかった。減塩の大切さも学べて良かった」と話していた。

講座は、若いうちから食の知識を得て健康づくりにつなげてもらうと、同協議会が長野南高校に働き掛けて実現した。

長野市民新聞

平成28年12月24日(土)

川中島白桃 01

長野市の名産品を 次世代につなぐ活動

長野南高校の取り組み

川中島白桃を後世に継承しようと、生産者と行政・地元住民が一体となって活動を展開しているイベントやボランティア活動に参加することにより、高校生としての視点から課題を発見し、情報発信をしました。



川中島白桃の原木(池田農園)

長野南高校生徒会

川中島白桃とは

「川中島白桃」は、白桃を元に開発された派生品種で、川中島町の自家農園で桃の品種改良に取り組んだ池田正元氏(故人)によって、昭和35年に育種(新品種池田1号)され、昭和52年に「川中島白桃」と命名されたものです。

長野市生まれの「川中島白桃」

生産者の声

は人気が高く、今では全国各地の桃の生産地で盛んに栽培されています。(長野市HPより)



JAGグリーン長野川中島もも部会

川中島共選所支部長

峯村景文さん

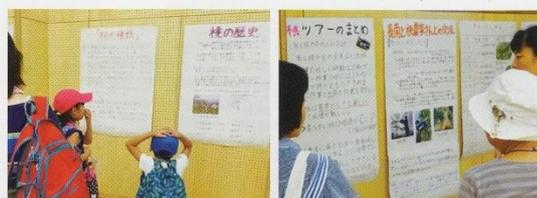
長野市南部に位置する川中島は、

犀川と千曲川に囲まれ豊かな水と自

然に恵まれた環境のなか、桃の生産が盛んで、特に「川中島白桃」「川中島白鳳」など、川中島で生まれた品種の桃が全国的に有名です。

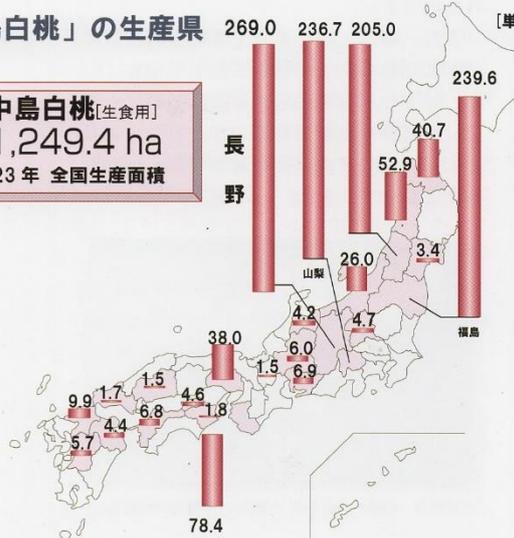
川中島白桃の発見が契機となり、桃栽培が盛んになりました。

川中島白桃は、商標登録をされなかったため、全国でその名称が使われていますが、ルーツは川中島です。



「川中島白桃」の生産県

川中島白桃(生食用)
1,249.4 ha
平成23年 全国生産面積



Column

川中島地区住民自治協議会は、平成20年度から「白桃ツアー」(原木見学、生産者の話、共選所で出荷作業の見学)を開催しています。同住民自治協議会は、桃の花ウォーキングや桃農家支援ボランティアの募集も行い、生産者と行政・地域住民が一体となって振興に努めています。本校生徒会はこうした企画に参加し、パネルにまとめて文化祭や公民館で発表しました。

行政・地域の声



川中島地区

住民自治協議会

会長 田原幸雄さん

川中島住民自治協議会には様々な実行委員会がありますが、「川中島白桃を愛する会実行委員会」では、春には「桃の花ウォーキング」、夏は「白桃ツアー」そして桃農家支援ボランティアの皆さんが、年間を通して地域の桃農家の作業を応援しています。



呼び掛けていただきま

ただき、桃農家支援ボランティアへの参加を

平成26年と27年は、長野県長野南高等学校の生徒さんが「白桃ツアー」に参加され、その後ボランティアとして剪定作業、摘果作業、袋かけ作業を体験し、7月の同校の文化祭「南陵祭」に展示発表して地域の皆さんにも見ていただきました。また、私ども主催の8月の「白桃ツアー」と10月の「川中島フェスティバル」にもパネルを展示しています。

「川中島白桃」に取り組む

長野南高校生生徒会顧問

長野南高校生の望みは、文化祭に他校の恐竜や龍のようなシンボルが欲しいということで、平成23年度に、「桃」のオブジェを制作して以来、取り組んできた「川中島白桃」を本格化しようと、平成27年度の文化祭終了後、生徒会の生徒たちが27年8月の「白桃ツアー」に参加しました。さらに「広報ながの」で、桃農家の後継者がいないことからボランティアを募集していることを知り、「風とみどりの会」の皆さんの協力を得て、生徒たちは剪定、摘花、袋かけ等の桃づくり作業に参加し、28年度の文化祭では生徒会執行部展としてその概要をパネルにまとめ展示発表をすることができました。

本校生徒会執行部の生徒は、生産農家の皆さんと一緒に桃づくり作業のお手伝いをさせていただきました。ながら、地域が抱えている後継者

の課題に気づき、文化祭でそのことを地域に発信しました。また、生徒たちは、より多くの若い世代に地元が誇る特産物に触れることを通じて「川中島白桃」が継承されていくことを願って、白桃ツアーや川中島フェス21にも出向いて「桃農家支援ボランティア」への参加を呼び掛けた発表を行いました。

長野南高校生生徒会の声

平成28年度 前期生徒会副会長
私たち長野南高校の生徒会は、

桃農家さんのボランティア体験をしてみ、美味しい桃を食べるには多くの苦労と手間がかかっているのだと実感しました。私たち長野県の名産品である「川中島白桃」は、今、作り手である生産農家の高齢化という課題を抱えています。そこで、

高校生の私たちが少しでも「川中島白桃」に興味と関心を持ち、少しでも農家の皆さんの力になればと思います。桃づくりの農作業のお手伝いや桃づくりに関する取材をし、文化祭で発表をしました。この活動が、これからの地域を担う私たち高校生が自分たちの地域の名産品に誇りを持つきっかけとなり、やがては「川中島白桃」が次世代にしっかりと受け継がれていくことになればと願っています。

「風とみどりの会」 代表 近藤良治さん

私たちは、私たちが住まうここ川中島の衰退を少しでもなくすため、また全国ブランド品種の「川中島白桃」を守るために活動しています。私たちはこの「川中島白桃」を次世代へつなげるために活動していますが、この会も高齢化の波にさらされているので、多くの方に参画していただき、この会も次世代につなげて行きたいと思っています。長野南高校の生徒さんの取り組みが市民の皆さんに広がって、大きな波となっていくきっかけになればありがたいと思っています。

challenge

川中島白桃のような信州各地のお宝を探しに出かけてみましょう。そのために、地域の人たちの中に入って一緒に活動してみましょう。地元にあるお宝が見えてきて、自分たちの活動が探究的で主体的な取り組みになっていくと思います。

Column

川中島住民自治協議会発行の第4回(H23)「白桃ツアー」の募集チラシを紹介します。生産者、行政・地域住民の皆様の白桃に寄せる熱い思いが伝わってきます。



